



個人研究主題

社会的な見方・考え方を深める「問い」をもとにした「対話型の学習」の実践

—対話による問いの深まりによって育む見方・考え方を働かせた「深い学び」—

倉 公一

主題設定の理由

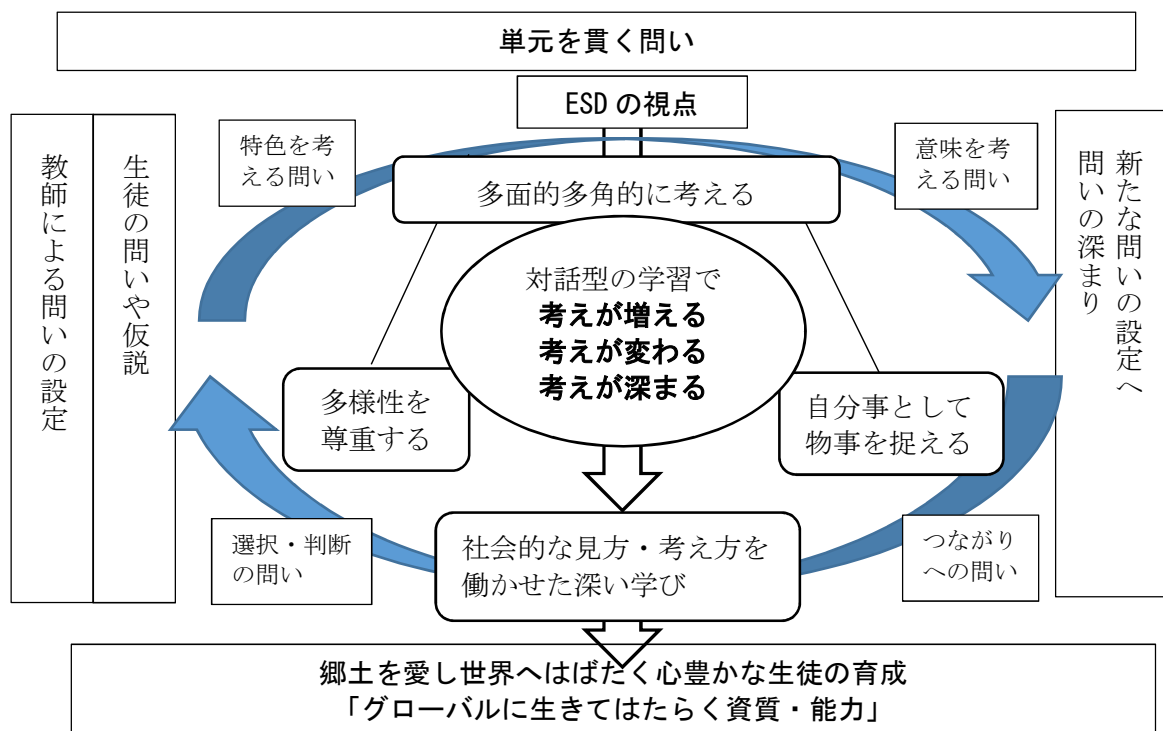
社会科において「グローバル社会に生きてはたらく資質・能力」を考えたとき、それは社会的な事象の特色や意味、課題を考え、見方・考え方を働かせて主体的に社会を創造していく力だと言える。その力を育む上で鍵となるのが「問い」であり、単元を通じた問いを構成し、主体的に自ら導く「問い・仮説・振り返り・新たな問い」の循環を進めることは、社会的な見方・考え方を働かせる力を養い、新たな社会を創造する力の基礎となる「深い学び」へと学びを進化させることにつながると考える。

本校では、総合学習 BIWAKO TIME を軸としたカリキュラムマネジメントを進めてきており、社会科においても思考ツールや統計資料を効果的に活用する情報活用能力を長年培ってきた。これらは1年生から教科横断的に設定されるさまざまな課題に取り組むことで培われるものである。本年度は「問い」や「仮説」に焦点を当て、社会科における見方・考え方や「深い学び」の基礎を養うことにはいかにつながるかを検証したい。

対象は1年生とし、社会的な見方・考え方を働かせ、深い学びに至る「問い」の創造を志向するとともに、思考ツールやICTをツールとして活用しながら、「対話」を通じて生徒の「見方・考え方」がより深まる単元の構築をめざすこととする。教師の立てる「問い」をもとに生徒が「問い」や「仮説」を立て、「対話型の学習」を通じた深まりや、「新たな問い」を導く学習過程が、主体的な深い学びに効果的につながることを明らかにしていくこととする。

■キーワード 問い、対話型の学習、見方・考え方を働かせる学び、仮説、新たな問い

研究の概念図





令和4年度(2022年度)

社会科(地理的分野)学習指導案

令和4(2022)年6月24日(金) 第6校時

第1学年C組 授業者 教諭 倉 公一

1. 単元名

「世界のさまざまな地域 人々の生活と環境」

2. 単元設定の理由

(1) めざす生徒の姿

生徒たちは小学校において、日本の地理的環境の特色やそれらの人々の生活との関連を考察し、日本と関係の深い国の生活について様々な資料から適切に調べまとめる学習を進めてきた。これらの学習を生かし、中学校の社会科地理的分野の学習において、世界における地理に関わる事象の意味や意義、特色や関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係などに着目し、地理的事象を多面的・多角的に考察し、自らより深く理解できる力を身につけさせたい。また、これらの学習を通じて、地理的課題の解決に向けて、公正に選択・判断したり、自らの思考を論理的に組み立て説明できる力を身につけさせたい。

(2) 教材観

本単元では、世界各地で営まれる人々の生活を見ていく中で、人間と自然環境の関係を、その位置や分布、相互依存関係から多面的・多角的に考察し、その繋がりについて気づかせたい。また、本単元の学習活動では、雨温図や地形図、写真資料から地理的事象を読み解き、地域的特色を様々な情報をもとに考察・類推する力を培い、この後に学ぶ世界の諸地域の学習の基礎となる地理的な見方・考え方を養うこととする。

(3) 指導観

本単元では、世界の様々な地域の地理的事象を概観させ、世界各地の気候による自然的条件が生活にどのように影響を及ぼしているかを、問いをもとに仮説を立てて類推し、多面的・多角的に考察することでその繋がりを深く探究させることとする。既習内容をつなげたり、相互依存関係をどのような手立てで考えるかという点を苦手とする生徒が多いことから、問いから仮説を考え、対話を取り入れた協働的な学習を通じて共に考え理解する場面を多く設定することとする。このことは、思考の反復を促し深く考えることにより地理的な見方・考え方を育むことにつながると考える。また、思考ツールを用いることにより情報を整理し、適切に読み解く力が身につくよう指導することとする。



3. 単元の学習目標

人々の生活が、その場所の自然や社会的条件から影響を受けたり与えたりすることを理解するとともに、生活の変容や宗教の分布からその多様性も理解できている。世界各地における人々の生活の特色や変容を、その場所の自然及び社会的条件に着目して多面的・多角的に考察し表現できる。

4. 単元の評価規準

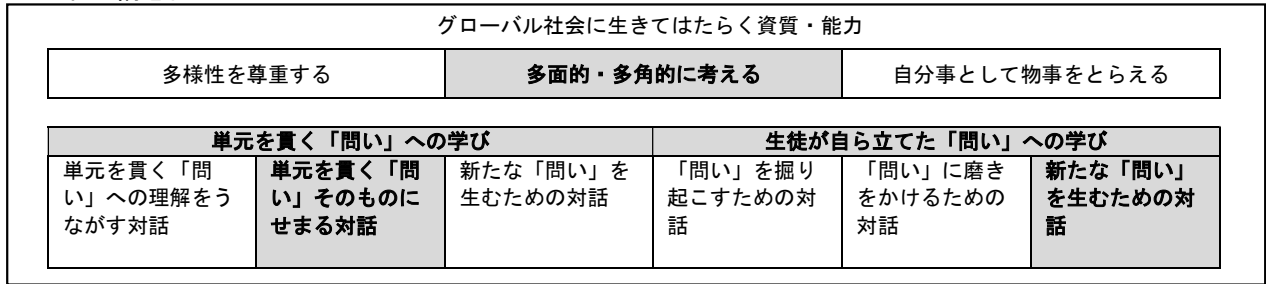
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①世界各地の気候の特徴や生活の特徴を資料から読み取り理解するとともに、雨温図や写真などの資料からその地域の生活に影響を与える自然及び社会的条件を読み取る。 ②学習した内容から様々な地域の生活の特徴の背景を結びつけて理解している	③世界各地の人々の生活の特色を考察するために適切な自然及び社会的条件を用いて判断している。 ④世界各地の人々の生活の特色を自然だけではなく社会的条件にも着目して幅広く多面的・多角的に考察し表現している。	⑤課題粘り強く取り組み、仲間とともに協働的に世界各地の人々の生活を理解しようとしている。 ⑥世界各地の生活の特徴を比較し、意見を周りと積極的に共有して、課題を追究しようとしている。

5. 単元の指導計画と評価計画（全9時間）

時程	学習活動	評価の観点		
		知	思	主
第1時	○世界のさまざまな生活環境 世界の気候にちがいはあるのはなぜなのか考察しようとしている			◎
第2時	○暑い地域の暮らし 暑い地域の気候は生活とどのような関連があるのか資料から理解している	◎		
第3時	○乾燥した地域の暮らし 乾燥した地域の人々は厳しい自然の中でどのような工夫をして生活しているのか資料から理解している	◎		
第4時	○温暖な地域の暮らし 日本とスペインを比較し、同じ温暖な地域でもどのような気候の違いがあるのか資料を読み解き、どのように生活の特色とつながるか考察している		◎	
第5時	○寒い地域の暮らし 寒さの厳しい地域では生活にどのような工夫がなされているか理解している	◎		
第6時	○高地の暮らし 標高が高い地域の自然は人々の生活にどのような影響を与えているか、資料を読み解いている	◎		
第7時	○世界各地の衣食住とその変化①（本時） 世界各地の衣食住のちがいの要因はどのようなことと関連しているのかこれまでの学習と関連させて考察している		◎	◎
第8時	○世界各地の衣食住とその変化②（本時） 気候以外に衣食住のちがいにどのようなことが影響しているか、多面的多角的に考察し表現している		◎	◎
第9時	○人々の生活と宗教の関わり 世界の宗教の分布や宗教が生活にどのように影響しているかを理解している	◎		



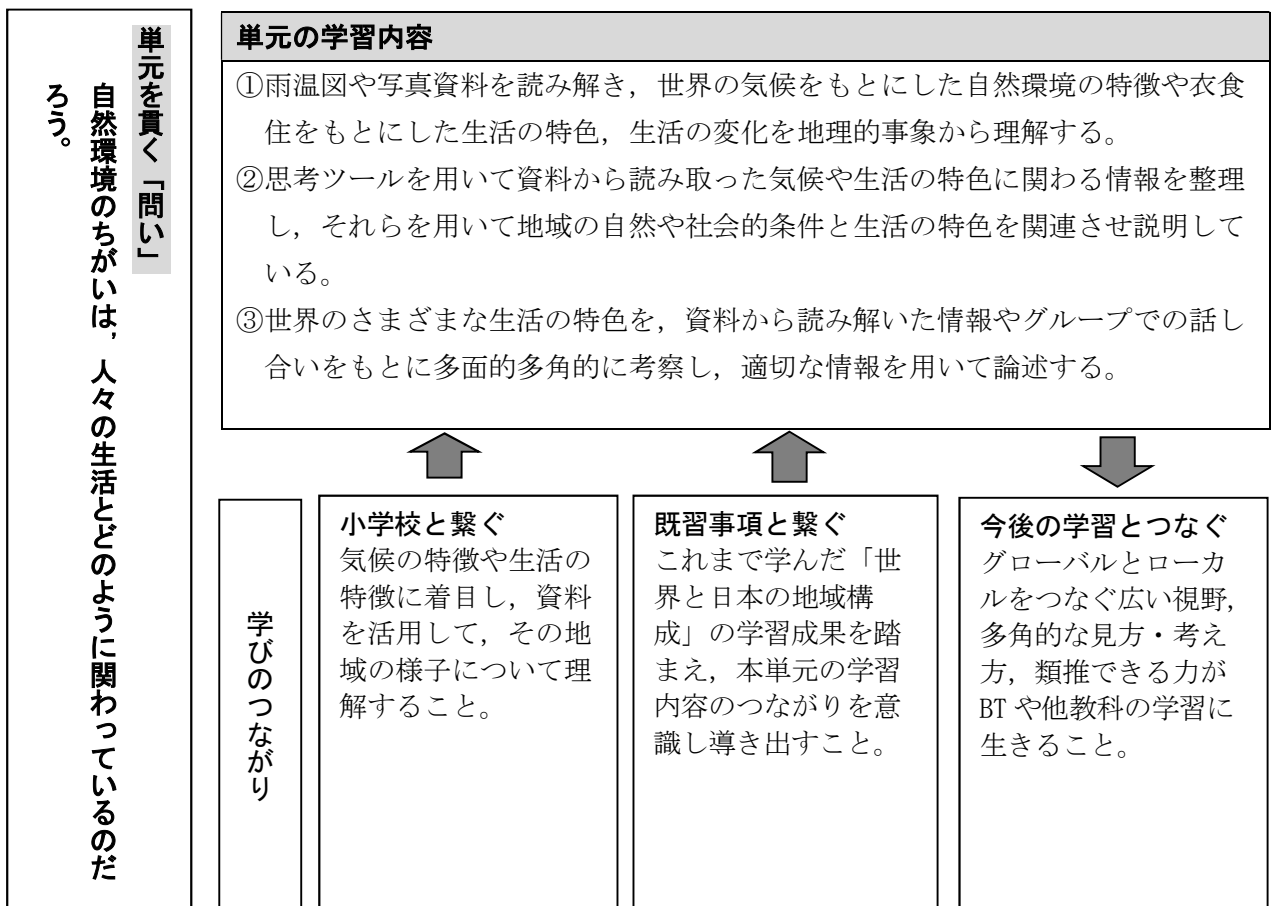
6. 単元構想図



★どのような手立て・指導上の工夫で迫るか

これまで学習してきたことを用いて世界の各地域の気候の分布やそのちがいが人々の生活にどのような影響を与えているかを、問いからの仮説を軸に多面的・多角的に考察し、深く探究し理解を深めることにつなげたい。

なお、研究概念図で示したように展開における問いについては、「特色を考える問い」「意味を考える問い」「つながりへの問い」「選択・判断への問い」という4つの意図を持った問いを用い、展開に応じた適切な問いを展開に応じて効果的に用いることにより、単元を貫く問いへの地理的な見方・考え方がより深まる学びへとつなげていきたい。





令和4年度（2022年度）

ルーブリック

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
S	雨温図の気温・降水量の変化から気候の特徴を、写真から生活の特徴を読み取り、それぞれを関連付け、生活への気候の影響を理解し、他事象へつなげ深めている。	世界の人々の生活の特色や変容を、自然及び社会的条件に着目して多面的・多角的に考察し、根拠を明確にして深め、表現している。	個人や班での考察で積極的に意見を出し、周りと協力し、自分の考えを発展させ、提案している。
A	雨温図の気温・降水量の変化から気候の特徴を、写真から生活の特徴を読み取り、それぞれを関連付けて生活への気候の影響を理解している。	世界の人々の生活の特色や変容を、自然及び社会的条件に着目して多面的・多角的に考察し表現している。	個人や班での考察で積極的に意見を出し、自分の考えを持っている。
B	雨温図の気温・降水量の変化から気候の特徴を、写真から生活の特徴を読み取れている。	世界の人々の生活の特色や変容を、自然及び社会的条件に着目して考察し表現している。	個人や班での考察に取り組み、自らの考えについても記入している。
C	雨温図の気温・降水量の変化から気候の特徴を、写真から生活の特徴を十分に読み取れていない。	世界の人々の生活の特色や変容を、自然及び社会的条件に着目した考察や表現が不十分である。	個人や班での考察について記入しているが、十分にまとめられていない。

7. 本時の目標および探究的学習活動の見どころ

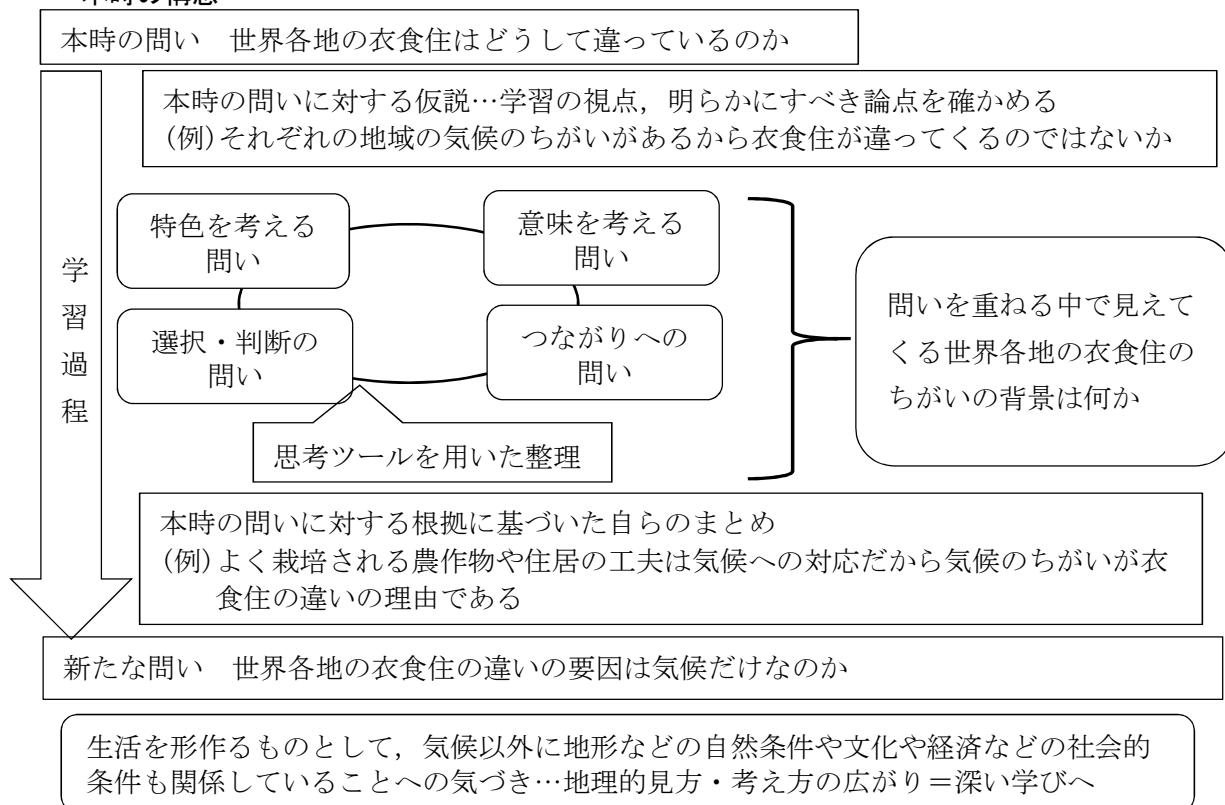
「世界各地の衣食住とその変化」

- ・既習内容から全体を概観して理解を深め、「問い」をもとにした「対話型の学習」と問い直しによる「新たな問い」で社会的な見方・考え方はどのように深まるか。

☆探究的学習活動の見どころ

探究的学習活動	A 課題を設定	B 情報収集	C 整理と分析	D 発表と交流	E まとめ	F 新たな課題
---------	---------	--------	---------	---------	-------	---------

・本時の構想





8. 本時の学習過程

(第7時) 世界各地の衣食住とその変化①(本時)

問い	学習内容・活動	○指導と★その意図 ◆評価
本時の問いを確認する	1. 本時の問いを確認し、問いに対する仮説を立てる。	○前時までの学習内容について授業ノート、ワークシートを振り返り、既習内容を生かして仮説を立てさせる。 ★前時の学習で学んだ衣・食・住を振り返らせ、生活の特徴の背景には何があるのか考えさせる。
学習課題(本時の問い) 世界各地の衣食住はどうしてちがっているのだろうか		
問いに対する仮説を立てる 仮説の共有をする	2. 仮説の交流を通じて、衣食住の違いに影響を与えていることは何か確認する。	◆既習内容を生かして適切な仮説を立てている。 ○仮説を立て、交流しあうことで、それぞれがどのような点に着目して考えをまとめているかを確認させる。 ★本時の学習の軸である気候との関連を意識させ、衣食住の背景について考察させていく。
なぜ住居の材料に木材が用いられているのだろう アジアの赤道付近の地域ではなぜ米がよく食べられているのだろう (意味を考えさせる問い)	3. 教科書の写真から異なる住居や主食がどのように分布しているかを確認する。 衣服については体験を通じて既習内容を確認し、材質の違いに気づく。	○これまでに学習したことをもとに家の主な材質や主食のちがい、衣服の機能や材質の違いについて考察させる。 ★これまでに学習してきた自然や気候と生活のつながりについて再度、気づかせる。 ◆これまでに学んだことをもとに、主に気候や自然環境と生活のつながりについて根拠をもって説明できている。
各班から出てきたものを見て気づくことは何か (つながりへの問い)	4. 衣服・住居・主食の3つの観点をまとめて言えることについて各グループでまとめる。	○個人で衣・食・住それぞれについてまとめたものをグループで交流し、共通点や異なる視点を共有させる。 ○黒板に示されたものを確認して追加事項や繋がりがあればさらに発表させる。 ★グループで考えたことを黒板に表すことで他の班との比較や全体像の共有を図る。
衣・食・住それぞれのことからまとめていえることは何か(特色を考える問い)	5. 世界各地の衣食住のちがいの要因として全体像からとらえる。	○自分たちがまとめたものを概観させ気づいたことを挙げさせる。 ◆3つの観点から総合的にまとめ特徴を述べるができる。
本当に気候だけなのか (選択・判断の問い)	6. 本時の学習を振り返るとともに新たな問いへとつなげる。	○本時の学習を振り返り仮説に対するまとめを確認させるとともに新たな問いへとつなげる。 ★本時の要点を振り返りつつ、次時への導入としてゆさぶる新たな問いへとつなげる。



令和4年度（2022年度）

（第8時）世界各地の衣食住とその変化②（本時）

問い	学習内容・活動	○指導と★その意図 ◆評価
衣食住をまとめて どんなことがいえ たか (特色を考える問 い)	1. 前時を振り返る。 2. 既習内容を用いて気候だけ ではない要因に気づく。	○前時の学習から衣食住の違いの要因を再確認させる。 ★衣食住の違いが気候の違いに起因していると考えたことを 振り返らせ、本時の学習の起点を明確にする。 ○既習内容から例示し、考える視点を提供することで補助と する。
学習課題(本時の問い) 世界各地の衣食住のちがいの要因は気候だけなのだろうか		
新たな問い	3. 世界の衣食住の違いに ついて新たな問いを立て る。	○衣食住の違いについて考えるため新しい問いとはどの ようなものか、自ら考え提案させる。 ★新たな問いを考えることにより衣食住に対する視野を 広げ、見方・考え方を広げるきっかけとする。
(新たな問い) 同じ地域や気候なのに衣食住に違いがあるのはどうしてだろうか		
どんな問いがよい か(意味を考えさ せる問い)		○問いを重ねていくことで学びを深めるということを示 し、グループワークに活用させる。
	4. 衣食住の違いは気候に よるものだけではないの ではないかということに 対して、グループで問い →仮説を立て、考えを交 流して考察する。	○ロイロノートの共有ノートを活用し、4人グループでウ ェーピングマップを作成して衣食住の違いの要因につ いて考察させる。 ★4人で同時に考えを共有させながら話し合い、問いにつ いて深めることができる。 ◆仲間の意見も取り入れつつ自らの意見も提供し、グループ での協働学習を通じて衣食住に関わる新たな視点での全体 像をまとめることができている。
新たに考えたもの は何か、どうして そう考えたのか (意味を考える問 い)	5. グループで作ったウェ ーピングマップに考察を 加えて発表する。	○グループで出し合った意見で作成したウェーピングマ ップからどのようなものが全体像として見えるか確認 させる。 ★他の班の発表を聞くことで自らの見方・考え方を広げ る。 ◆全体像としてまとめ考察することができている。
各班の発表からど んなことに気づい たか (意味を考える問 い)	6. 本時の学習を振り返 り、改めて世界の人々の 生活の違いに影響を与 えているものは何か確認 する。	○本時の学習を振り返り、新たな問いへのまとめをさせ る。 ★学習活動を通じて世界の人々の生活の特色に対する視 野の広がりを実感させ、見方・考え方の深まりに気づ かせたい。



令和4年度（2022年度）

【 参考文献 】

文部科学省「中学校学習指導要領 平成29年告示」，2017年

原田智仁「中学校新学習指導要領 社会の授業づくり」2018年，明治図書出版

澤井陽介・加藤寿朗編「見方・考え方 社会科編 [見方・考え方]を働かせる真の授業の姿とは？」東洋館出版社，2017年

渡部竜也・井手口泰典編「社会科授業づくりの理論と方法 本質的な問いを生かした科学的探求学習」明治図書出版，2020年

澤井陽介「教材・発問づくりのポイント 問いの深まりを意図した単元展開を」教育科学社会科教育5月号，明治図書出版，2022年，pp. 4-7

七里広志「社会科における自ら問いを立てる学習の在り方とその成果」滋賀大学教育学部附属中学校研究紀要64，2022年，pp. 32-39